

第3回 「国土交通広域連携中部会議」

議事要旨（案）

日 時 平成18年8月2日（水）13:00～13:50

場 所 ウェスティンナゴヤキャッスル2階 天守の間

◇ 話題提供〔第15回 国土交通中部地方有識者懇談会(まんなか懇談会)の結果について〕

○須田 東海旅客鉄道(株)相談役

- ・ 平成17年度より「まんなかビジョン」の中間評価を行っている。アウトカム指標を中心とした評価からは、まずまずの評価が得られたが、これは万博の成果と重なっている面もあることを理解しておかなければならない。
- ・ 人口減少社会が議論の基層となり、日本のまんなかにある中部の役割とは何かを再確認した。
- ・ その中では、「安全・安心の国土づくり」、「環境」という視点が重要であり、市町村が適切な役割分担を図り、「選択と集中」によるメリハリのある社会資本整備を進めていくべきとの考え方が得られた。
- ・ また、都市と中山間地域の相互関係を念頭に置きながら、一体管理していくべきとの意見も得られ、そのためには、「交流」と「モノづくり」を念頭においたインフラ整備が重要という点に議論が集中した。
- ・ これから進めていく様々な施策を測る物差しとしては、中部の「環境」と「交流」という点から考えるべきではないかと考えられる。

◇意見交換（主な意見）

○石川 静岡県知事

- ・ これからの地域づくりを考える際には、「連携」と「交流」が重要なキーワードになると思う。
- ・ 特に、陸海空の総合的な交通ネットワークと通信ネットワークの果たす役割は大きく、さらに整備を進めていかなければならない。
- ・ 静岡県においては、道路は第二東名自動車道、中部横断自動車道、三遠南信自動車道等の整備、港湾は清水港、御前崎港等、空港は富士山静岡空港の整備が進められており、遅滞なく整備し、できるだけ早く供用化を図る必要がある。
- ・ 今後、中部圏においてはコンピューター空港なども整備されるべきだと思う。

○神田 愛知県知事

- ・ 「まんなかビジョン」の改訂においては、万博の理念や成果をどう継承していくかが重要な課題である。特に、どのような環境施策を展開していくかを考えなければならない。
- ・ 満足度調査において、地球温暖化対策に関する住民の満足度が向上していないことも考えれば、「環境」という点について積極的に取り組んでいくことが、万博を開催した当地の責務であると考えられる。
- ・ また、厳しい財政の中、住民ニーズが多様化している時代においては、「選択と集中」が必要であるが、いざ何に重点をおいて取り組んでいくかを考えるのは非常に難しい。地域の特性や役割分担を明確にし、「どこを集中的にやるのが効率的で機能的か」をチェックする必要もある。
- ・ このような議論をする際にはまんなか懇談会は大変適切な場だと思っている。今後の議論にも積極的に参加したい。

○野呂 三重県知事

- ・ 人口減少社会を迎える中で地域の活力を向上させるためには、従来の中央集権的な行政システムではなく、地域の特色、個性を活かした地域主権の社会を構築することが重要と考える。
- ・ その際重要なことは、住民1人1人が主体的に行動し、個人でできないことは、「補完性の原理」の中でサポートしていくことが必要である。
- ・ また、「交流」や「連携」が最も重要なテーマであり地域間で連携し、お互いの強みを活かし、お互いの弱みを補完していくことが、地域の活性化につながっていくと思う。
- ・ 環境の問題については、この地域の象徴的なものである伊勢湾再生への取り組みの成果に期待したい。

○松原 名古屋市長

- ・ 満足度調査の結果から、循環型社会の形成への取り組みや地球温暖化対策に関する設問で高い関心度が示されていることは、環境をテーマとした万博の大きな成果であると認識している。
- ・ 名古屋市では、万博を契機に「人づくり」が重要であると考え、市民・企業・大学・行政が環境についてともに学び、展望を共有しあう場として「なごや環境大学」を開講した。NPOや市民団体が精力的に講座を開講しており、環境についてセンシティブな地域であることを発信できたと思う。
- ・ 今後のこのような気運の高まり、意識の高まりを促すことが極めて大事だと考えている。
- ・ CO₂削減の問題については、ライフスタイルを変化させると同時に、渋滞の緩和、低公害車・低燃費車、パーク&ライドの普及促進、ETCの普及が重要と考える。

○小嶋 静岡市長

- ・ 人口減少社会における都市と中山間地との関係については、中部圏域全体の課題であり、川上と川下の関係は重要である。
- ・ 静岡市は川上と川下がすべて一つの市域に入っている。ただし、近年では森林が荒廃し始め、静岡市民の協力の下、森林の施業活動を行っている。生活の豊かさをもたらす森林の重要性が市民の共通認識としてあることをありがたく思っている。
- ・ これからの静岡市については、第二東名自動車道、清水港などの整備が進む中でポテンシャルが高まり、影響を及ぼす範囲が非常に広くなると思っている。現状は関東圏とのつながりが強い傾向にあるが、社会資本整備の進展により中部圏とのつながりも強くなっていくのではないかと。

○棚橋 岐阜県副知事

- ・ 中山間地域の森林の荒廃が進む中で、満足度調査結果において「中部地方の農山村や漁村には、住んでみたい、働いてみたいと思う魅力がある」や「あなたの住む地域では、近隣市町村同士や河川の上流地域と下流地域の間で連携した取り組みや交流が活発に行われている」といった項目の満足度が低下しているのが気がかりである。
- ・ 岐阜県では、5月に植樹祭を開催し、それを契機に「森林づくり基本条例」を策定した。森林は、環境、国土保全、防災機能という点においても重要であることから、誰もが森林づくりに参加できる仕組みづくりを進めている。
- ・ 今後のビジョンの改訂については、地域間で適切な役割分担をしていくことが必要であり、各地域が役割を果たしていく取り組みを地域全体で理解し、サポートし、参加をしていくような取り組みを「まんなかビジョン」で示していく必要がある。
- ・ 中山間地域を守っていくためには、交通ネットワークも重要であり、広域的な面での目配り・気配りを視野に入れていただきたい。